

The 25th Annual Meeting of the Japan Society of Clinical Hair Restoration

# 第25回日本臨床毛髪学会学術集会

毛を感じる、生かす



特別セッション

## 円形脱毛症と男性型および 女性型脱毛症の治療 New topics

**開催日時** 2020年11月30日(月)～2021年1月18日(月)

**会場** Web オンデマンド配信

演者

大阪大学大学院医学系研究科  
皮膚・毛髪再生医学寄附講座 特任教授  
心齋橋いぬい皮フ科 院長

乾 重樹先生



演者

大阪大学大学院医学系研究科  
皮膚・毛髪再生医学寄附講座 特任教授  
心齋橋いぬい皮フ科 院長

乾 重樹 先生

## ▶ 円形脱毛症と男性型および女性型脱毛症の治療: New topics

急速進行型円形脱毛症に対して従来ステロイドパルス療法が試みられてきたが、日本皮膚科学会ガイドラインでは入院の上施行することが勧められている。ところが実地診療においては入院が困難な例もある。そこでそのような症例に対してステロイド内服薬をステップダウンしていく治療を試みたので報告する。

発症6ヵ月以内の急速に進行する円形脱毛症患者62例に対してプレドニゾロン20mg/日を開始し、10週で漸減する投与方法(ステップダウン療法)により治療した。2例は各々胃痛・下痢およびプレドニゾロン錠内服時気分不良のため中止した。その結果、発症から4ヵ月以内で頭皮の脱毛面積が50%未満であれば、著効率は約90%であった。しかしながら再発率は平均観察期間15.4ヵ月で30%であった。従来行われてきたステロイドパルス療法での平均観察期間15.3ヵ月での再発率は16.7%であったのと比べると高率であった。またこの再発率はステップダウン療法開始時の重症度とは相関しなかった。再発例18例の治療については再度のステップダウン療法、ステロイド外用および局注、局所免疫療法、ステロイドパルス療法、ステロイド継続内服を種々試みたが、著効は8例、7例は無効か部分的な発毛にとどまった。

以上よりステロイド内服薬ステップダウン療法は急速進行型円形脱毛症に対して一定の効果を得るが、従来のステロイドパルス療法に比べると再発の可能性について注意深く経過観察していくことが重要である。

また男性型および女性型脱毛症治療のnew topicsとして赤色LED照射の症例集積研究が進行中であるので、その結果についても報告する。さらに現在までのLEDの皮膚科的応用のデータについても触れたい。

### 略歴等

#### 【略歴】

1991年 大阪大学医学部医学科卒業  
1991年 大阪大学医学部皮膚科学教室入局  
1992年 大阪労災病院皮膚科医員  
1996-8年 米国留学(ウイスコンシン大学、ロチェスター大学)  
この間、1997年 大阪大学大学院博士課程修了、学位取得  
1999年 大阪大学医学部皮膚科学教室医員  
2000年 大阪大学医学部皮膚科学教室助手  
2006年 大阪大学医学部皮膚・毛髪再生医学寄附講座  
准教授(附属病院皮膚科兼任)  
2016年~ 心齋橋いぬい皮フ科院長・大阪大学医学部皮膚科学  
講座招聘教授  
2018年~ 大阪大学大学院医学系研究科  
皮膚・毛髪再生医学寄附講座特任教授

#### 【専門医資格】

日本皮膚科学会専門医、日本アレルギー学会専門医・指導医、日本褥瘡学会認定師(医師)、日本抗加齢医学会専門医

#### 【学会役職など】

日本臨床毛髪学会理事長、日本毛髪科学協会副理事長(資格審査委員会委員、中長期事業計画委員会委員)、日本美容皮膚科学会理事(雑誌編集委員会委員長、推薦委員会委員、学術教育委員会委員、用語集検討委員会委員)、日本皮膚科学会代議員、毛髪科学研究会世話人・監事、日本研究皮膚科学会評議員、日本アレルギー学会専門医制度試験問題作成委員、日本抗加齢医学会評議員、日

本皮膚免疫アレルギー学会評議員(広報委員会委員)、日本褥瘡学会評議員、日本化粧療法学会評議員、Editorial-in-Chief, Hair: Therapy & Transplantation, Senior Editor, ScienceJet (Nanoscience and Nanotechnology Section), Editorial Board, ISRN Dermatology, Journal of Cosmetics, Dermatological Sciences and Applications, Case Reports in Dermatological Medicine

#### 【受賞】

第3回国際毛髪科学学会、Oral Presentation Award, 2001  
第27回日本接触皮膚炎学会学術大会 ポスター賞、2002  
JSID Shiseido Fellowship Award, 2003  
第4回ガルデルマ賞、2003  
第24回日本美容皮膚科学会  
アイデアアンドイノベーション賞、2006  
第107回日本皮膚科学会総会 ポスター賞、2008  
第8回日本抗加齢医学会総会 奨励賞、2008  
第72回日本皮膚科学会東部支部総会 会長賞、2008  
平成22年度日本皮膚科学会雑誌論文賞(The Journal of Dermatology), 2010  
F1000Prime AFM Travel Grant 2013  
JD Award, Most Downloaded Articles in 2013  
第14回日本抗加齢医学会総会プレナリー賞、2014  
第33回日本美容皮膚科学会優秀演題賞、2015